

「巨人の星」

【様々なコンプレックスを抱える中学生に、少しでも前向きになってもらえたらと思う】

私は30歳を少し過ぎた頃から、髪の毛が薄くなってきました。鏡を見るたびにそのことが気になり、なるべく目立たないようにと、髪型をいろいろと工夫してみました。

しかし、そのことが原因だと思うのですが、何となく他の人の目や行動が気になるようになりました。人が笑っていると自分のことを見て笑っているんじゃないか、人が話をしていると、自分のことを話しているんじゃないかと、勝手に思いこんでいたのです。

そんなある日、私は床屋に行った時に、思い切って床屋のおじさんに質問してみました。「この髪の毛が薄いのは、どのようにしたら目立たなくなりますか？」

そしたら、床屋のおじさんはこう答えました。

「髪の毛全体を短くしてしまった方が目立ちませんよ」

私は、ハッとしました。私は髪の毛が薄いことを隠そう、目立たないようにしようとはばかり考えていたんだけど、それは違うんじゃないか、と思ったのです。そして、その時、私は小さい頃に読んだあるアニメのことを思い出しました。

「巨人の星」という野球アニメです。主人公星飛雄馬は、父親の指導の基、プロ野球の巨人軍、読売ジャイアンツですね、の選手になる夢を小さい頃から追いかけます。このような大リーグボール養成ギブスをし、厳しい練習に耐え力をつけていきます。

そして、苦勞の末、念願の巨人軍にピッチャーとして入団を果たすのです。しかし、それもつかの間、自分自身の重大な欠点が明らかになります。それは、星飛雄馬はスピードとコントロールはとてもよいのですが、体が小さいので球質が軽いのです。だから、バットに当てられると、飛んでいってしまうのです。プロのピッチャ

一としては致命的な欠点だったのです。飛雄馬は絶望します。

絶望の中、飛雄馬はあるお寺で座禅をくみました。座禅をくんでいると和尚さんが姿勢が悪いといって、ぼんと肩を打ちます。飛雄馬は、打たれないようによい姿勢をとろうとします。するとまた叩かれます。何度姿勢を直しても打たれます。飛雄馬は開き直って、「打たれてもいいや。打ちたければ打てばいい」と思うようになります。すると、不思議と打たれなくなったのです。

その時、和尚さんはこう言いました。

「打たれない、打たれたくないとするほどもろいものはない。打たれてもいい、打ってください、と言う心になった時、いろんな悩みや苦しみから解放され、解決の道が開けるものだ」

打たれたくない、打たれたらどうしよう、という心は、私が隠そう、隠そうとしていた心と同じです。人の視線や行為が気になって仕方なかった私は、もろい心だったと思います。

飛雄馬もは、今までピッチャーとして、バッターに打たれないように、打たれたくない、とばかり思っていた自分に気がつきます。そして、魔球大リーグボール1号を完成させました。

大リーグボール1号という魔球は、わざと相手のバットに当て、打ち取る魔球です。この時、飛雄馬の球質が軽いことが武器となります。軽い球だから、バットにあたった時大きく跳ね返り、野手がとりやすいのです。つまり、自分の欠点だと思っていたことが、自分の最大の武器になったのです。この大リーグボール1号で飛雄馬は巨人軍で大活躍するのです。

さて、なぜ飛雄馬は自分の欠点を武器と変えることができたのでしょうか？

欠点を何とかしよう、私で言えば髪の毛が薄いのを隠そうとばかりしては道は開けないのです。隠そうとするのではなく、それを受け入れ、開いてしまうことにより、欠点は自分の武器になることがあるのです。

誰にでも、欠点や人よりだめだなあとすることがあります。でもそれを隠そうとしている限り、それは欠点であり、ある時にはそれが劣等感になっていきます。でも、そ

れを受け入れ、開いてしまった時、それは個性となり、自分の武器となることがあるのです。